

教職員の健康管理の指針を求めて

— 医療費分析調査結果から —

福利課

はじめに

教職員の健康管理事業として福島県では、成人病検診、人間ドック、婦人科（乳がん・子宮がん）検診及びへき地教職員巡回検診を実施しております。更に、昭和六十三年度からは、器官別検診を導入し教職員の健康管理の充実に努めています。

これらの事業は、主として成人病の早期発見を目的として、年々その検診内容、対象範囲等の充実・拡充を図ってきたところです。

しかし、後述のとおり成人病による死亡者は、依然として七十パーセントを占めているのが現状です。

このことから、より効果的な健康管理事業とするため、事業の指針となる資料を求めて、本県教職員の疾病構造、受診状況など医療費の傾向を分析することとし、昭和六十一年度から医療費分析調査に取り組みました。

まだ分析の第一歩で、おおよその傾向を把握できた段階ですが、その概要を述べることにします。

一、調査方法

(1) 調査票としては、保険医療機関から提出された診療報酬明細書を使用しました。

(2) 調査時期は、年間で件数、医療費とも最も多い三月診療分及び件数、医療費とも平均的な六月診療分とし

表1 死亡者総数 (57年～61年度)

年度区分	57年	58年	59年	60年	61年	計
死亡者数	28人	35人	21人	38人	33人	155人

表2 年代別死亡者数〔死亡率〕 (57年～61年度)

年代別 性別	20代		30代		40代		50代		計	
	人数	死亡率	人数	死亡率	人数	死亡率	人数	死亡率	人数	死亡率
男性	4人	0.030%	10人	0.076%	30人	0.210%	91人	0.353%	135人	0.205%
女性	3	0.020	1	0.001	8	0.073	8	0.130	20	0.046
計	7	0.025	11	0.044	38	0.150	99	0.310	155	0.142

※ 死亡率は、年代別教職員数に対する比

表3 死因別死亡者数 (57年～61年度)

死因 性別	悪性 新生物	心疾患	脳血管 疾患	脳腫瘍	肺炎	肝硬変	腎炎及び ネフローゼ	その 他の 疾患	その他	計
男性	60人	20人	15人	1人	2人	6人	—人	12人	19人	135人
女性	14	2	1	—	—	—	1	1	1	20
計	74	22	16	1	2	6	1	13	20	155
割合	47.7%	14.2%	10.4%	0.6%	1.3%	3.9%	0.6%	8.4%	12.9%	100.0%

(3) 疾病分類は、社会保険表章用疾病分類表（九十九項目疾病分類）を簡略化して六十八項目とした。

二、教職員の死亡状況等

医療費分析調査に先立ち、本県教職員の死亡者の実態を過去五年間（昭和五十七年から昭和六十一年度）調査しました。

表1は、死亡者を年度別にみたもので、五年間で百五十五名が亡くなっています。この死亡者の男女別、年代別の人数は、表2のとおり男性百三十五

名で全体の八十七・一パーセントを占め、女性は、二十名で十二・九パーセントを占めています。

本県教職員数（昭和六十一年六月一日現在）は、男性一万三千八百八十七人、女性八千六百八十八人に対し、死亡率は、一万人につき、男性二十・五人、女性四・六人となり、男性は女性の四・四倍となっていることがわかります。

これを年代別にみますと、男性では、五十代が九十一名（男性死亡者の六十七・四パーセント）で圧倒的に多く、四十代、三十代、二十代の順に少なくなっています。女性では、五十代、四十代がともに八名ずつ（女性死亡者の